

関西学院大学 研究成果報告

2023年 4月 14日

関西学院 院長殿

所属：社会学部
職名：教授
氏名：鳥羽 美鈴

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国： ドイツ ） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国： ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間 <input type="checkbox"/> 関西学院外留学（滞在国： ）
研究課題	ドイツの移民問題に関わる現状調査
研究実施場所	ドイツの各都市（主にベルリン）
研究期間	2022年 4月 2日 ～ 2023年 3月 31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

移民問題に関わる現状を理解するために、その背景と歴史を精査に学ぶ必要があった。Bremerhaven（ブレーマーハーフェン）に位置するDeutsches Auswandererhaus（ドイツ移民ハウス）を訪問した。本博物館は、移民をテーマとして取り上げたヨーロッパ最大の博物館として知られ、研究上その訪問は不可欠なものであった。本博物館においては、今日の移民・難民受け入れ大国となっているドイツから多くの人々が特に米国に渡った背景について詳細に時系列を追って学ぶことができただけでなく、当時のドイツ国内や移民を選択した人々の生活状況について精密な多くの模型や展示品とともに理解を深めることができた。また、Historisches Museum（歴史博物館）を訪問した。ここは博物館が位置するBremerhavenの歴史に焦点を当てたものだが、文書や写真などでは把握が困難であった、この地域におけるドイツ人の生活様式の推移などを多くの立体展示物や情景模型などによって明瞭に把握することができた。

博物館や定期的に通ったベルリン市内の図書館での資料収集を通して、歴史理解を深めると同時に、ドイツ国内の都市、主にベルリン、その他（フランクフルト、ハイデルベルク、ボン、ケルン、デュッセルドルフ、ドレスデン）各市内の移民街において、ドイツ在住の移民に関わる最新情報を収集した。連邦制のドイツにおいては、州ごとに政策を異にし、移民が置かれた状況もそれぞれ異なる。従って、本研究課題の達成のためには、その現状把握のために、州を異にする複数都市の訪問と観察を必要とした。

フランクフルト市内においては、特に中華系とインド系移民に注目して、定点観測を実施した。ハイデルベルク市内においては、孔子学院とその周囲を訪問し、特に中華系移民に注目して情報収集を実施した。ボンでは、Haus der Geschichte（歴史館）にて、特にNordrhein-Westfalen州の歴史に関する情報を得たうえで、同州内の各都市における調査を進めた。ケルンでは、マグレブ系移民の集住地域及び中央モスクの礼拝所に入室し、居住環境や移民の現状を観察した。デュッセルドルフにおいては、日本人移民の集住地域を訪問した。

今回の出張により得られた成果は、出張前の事前準備として得ていた各都市の移民統計などのみでは把握できなかった、下記のような有用な情報が得られたことである。すなわち、移民の集住地域と他の地域、あるいは日本人移民集住地域とマグレブ系移民の集中地域との顕著な差異、中華系移民による日本文化の転用、イスラム教徒移民を支えるトルコ政府の強力な支援体制などの事実である。

ドレスデン市内では、アジア系移民街を複数日にかけて訪問し、実態を調査した。特に注視したのが、商店街の経営者及び従業員たちの出自である。外観のみからでは正確な出自を知り得ないので、食材店や飲食店内において聞き取りを実施し、実態の把握に努めた。その結果、アジア出自者のうちでも、統計データが示すように、ベトナム系移民が実際に多いことが確認できたのに加えて、ベトナム人とともにタイやカンボジア出自の移民がともに働いていること、さらに少数派のタイ人たちがドイツ語のみならずベトナム語の習得に努めている実態などが明らかになった。聞き取りを通して、彼らの英語やドイツ語の運用能力についても確認することができた。また、移民たちが自らの生活を維持するための戦略として、欧米系の大手店舗の閉店時に店を開くことで、確実に顧客確保と収入維持がなされていることを、曜日・日時を異にする複数回の訪問観察によって確認することができた。

同市内においては、ユダヤ教徒移民の実態を知るためにシナゴグ周辺を観察、また、ロシア系移民の実態把握のためにロシア教会の儀礼に参列した。ドイツ国内において、一般にイスラム教徒などに比して不可視的なロシア系移民の存在と貴重な儀礼の様子をここでは目撃することができた。さらに、ロシア教会との比較調査のために、キリスト教会を訪問した。

再訪したフランクフルトでは、同市内で開催されたAfrikanisches Kulturfest（アフリカ文化祭）に大会開催の3日間参加した。本大会では、主にアフリカの食文化と音楽が紹介されたが、ドイツのアフリカ系移民に関する情報収集を目的として、諸文化の観察とともに、本大会の参加者に対して聞き取りを実施した。大会1日目には、セネガル人のグループ、2日目にはガンビア人のグループに対して、それぞれフランス語圏出身であるにも関わらず、なぜフランスではなくドイツを移民先として選択したかなどについて意見を収集することができた。2日目には、ドイツのアフリカ系SPD党議員とセネガル出身の研究者による講演会も実施された。ここでは、開始早々から使用言語を巡って司会と会場参加者の間で盛んな議論が交わされるのを観察する機会にも恵まれた。大会3日目には、主にドイツ人グループに対して聞き取りを実施し、アフリカ系移民のドイツ社会への統合の在り方について、公的資料からは把握しがたい率直な意見を収集することができた。

移民をテーマとした研究大会（4th Conference of the German Network for Forced Migration Studies）にも参加した。移民・難民の統合などに関わるパネル発表が本大会において連日、数多く実施され、発表を聞くだけでなく質疑応答に積極的に参加して情報収集と理解を深めることが可能となった。同時に、大会現場に足を運んだことで、主にドイツを拠点に研究を進める多くの研究者たちと個別に意見交換する機会も得られた。今後、彼らと共同研究を進める可能性や、初参加であった本大会の次年度以降において出張者自身が発表成果を公表する可能性を得ることができた意義は大きい。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

報告用紙①

- ◆ 研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。